

むらびつら・まちびつらのモデル事業が連携

2地区で始まる都市交流・地域活性化の取り組み

★小規模集落元気作戦モデル事業…行頭地区

★新たな公によるコミュニティ創生支援モデル事業…竹万あゆみ協議会



竹万あゆみ協議会で行われたスイカ割り



行頭公民館での意見交換

このたび、船坂地区の行頭自治会（三浦剛介会長）で、高齢化が進む小規模な集落を対象に兵庫県が集落の再生と活性化に向けて支援する「小規模集落元気作戦」の活動が始まりました。行頭集落では、県下16のモデル地区のひとつとなったことから、支援サポーターを招き、今後、都市と農村集落のパートナーシップを中心に据え、都市住民との交流により集落の活性化を目指す取り組みを行っています。

一方、竹万地区において事業者や地元住民で組織された「竹万あゆみ協議会（大本篤磨会長）」では、住民が地域づくりの担い手と位置づけ国が支援する「新たな公によるコミュニティ創生支援モデル事業」にNPO（特定非営利活動）法人地域再生研究センターと共同で応募し、事業採択を受けました。

8月9日（土）、竹万あゆみ協議会は、「新たな公」の取り組みとして「夏休み親子農村体験イン上郡」をあゆみ橋周辺で開催しました。この交流イベントでは、地域住民が家族で参加し、千種川の河川清掃作業を行った後、アユのつかみどりやスイカ割りを行いました。また、地域再生研究センターを通じて応募した神戸在住の親子など25名がバスで会場入りし、千種川河川敷は約100名の参加者でにぎわいました。

竹万あゆみ協議会の大本会長は「天候に恵まれ、参加者に喜んでもらえてよかった。あゆみ橋、新雲津橋の完成や、区画整理事業で公園の整備が整ったことを機に、今後地元と事業者などが一体となって地域の発展をめざした活動をしていきたい」と話され、参加者には竹万地内で収穫された野菜が贈られました。

イベント終了後、神戸から参加した親子らを乗せたバスは、一路、



アユつかみを楽しむ参加者

行頭へと向いました。これは、地元が「小規模集落元気作戦」を進める初期段階で、都市部の方に集落を探索してもらい次の交流のきっかけにしようとするものです。参加者は安室ダムの施設見学や公民館での意見交換を行いました。

自治会役員を交え和やかに行われた意見交換会では、「旅行に行かなくても近くにこんな素敵な場所があることがわかった。泊まる場所があれば泊まって何度でも来てみたい」「きっかけがあれば交流を続けたい」などの意見が出されました。三浦自治会長は「外部の方に来てもらうことで、集落に夢を与えてもらえる。今日で終わらず、交流が続くようになればと思います」と述べ、お土産に自慢のお米を贈りました。